

ヴィオラスペース 2009

日本初の国際ヴィオラコンクールを 紀尾井ホールで開催

18年目を迎えたヴィオラスペース

ヴィオラスペースは、これまで独奏楽器として取り上げられることが少なかったヴィオラの魅力を世界へ向けて発信する企画として、1992年から開催されてきた。2003年以降、会場をカザルスホールから紀尾井ホールへと移し、今年で18回目を迎える。回を重ねるごとに内容も充実し、ヴィオラの祭典として定着してきた。

ガラ・コンサート / 2009年5月29日
キム・カシュカシュアン氏(ヴィオラ・ソロ)ほか
原田幸一郎氏指揮 桐朋学園大学オーケストラ



©藤本史昭

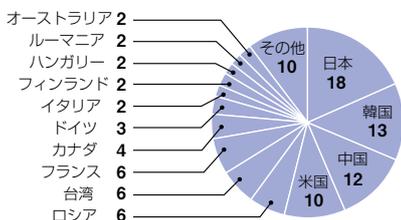
第1回 東京国際ヴィオラコンクール 多彩なプログラムでヴィオラの魅力を発信

今回はヴィオラスペースの一環として、日本初となるヴィオラの国際コンクールが開催された。

ヴィオラ単独の国際コンクールは、ミュンヘン、ジュネーヴなどで行われているものの、ヴァイオリンなどに比べて圧倒的に数が少なく、ヴィオラ奏者の力試しの場がほとんどない状況だ。そうした中、本コンクールにはアジアを中心に世界各国から98名もの応募があり、予備審査を通過した37名が紀尾井ホールで競い合った。

またコンクール審査だけにとどまらず、今井信子氏、ジャン・シュレム氏、川本嘉子氏ら著名なヴィオラ奏者が直接指導するワークショップとガラ・コンサート、入賞記念コンサートも開催された。

コンクール国籍別応募数



第1位のセルゲイ・マーロフ氏 (ロシア)

©藤本史昭



紀尾井小ホールで行われたワークショップ
講師はジャン・シュレム氏 (パリ国立高等音楽院教授)

©藤本史昭

第1回 東京国際ヴィオラコンクール概要

■コンクール審査 (一般公開)

5月23,24日 第1次審査
5月26,27日 第2次審査
5月29,30日 最終審査

■ワークショップ

5月25,28日

■ガラ・コンサート

5月25日 第一夜「無伴奏からアンサンブルまで」
5月29日 第二夜「ソナタと協奏曲」

■入賞記念コンサート

5月31日



最終審査で演奏する第2位のディミトリ・ムラツ氏。
共演者はチェロの宮田大氏

©藤本史昭

5月23日～31日、紀尾井ホールにおいて日本初となるヴィオラ単独の国際コンクール「東京国際ヴィオラコンクール」が開催された。これは世界的ヴィオラ奏者である今井信子氏の提唱で1992年から始まった「ヴィオラスペース」の一環として行われ、プログラムにはワークショップやコンサートなど多彩な企画が盛り込まれた。今号では、記念すべき第1回の模様を紹介する。



皇太子殿下が入賞記念コンサートにご臨席



今井信子氏とご歓談される皇太子殿下

5月31日、栄えある1位から3位の入賞者への授賞式と入賞記念コンサートが行われ、コンサートには、ご自身もヴィオラを演奏される皇太子殿下がご臨席された。審査委員長を務めた今井信子氏は、審査のポイントを次のよ

うに語った。

「第一次審査では、ヴィオラという楽器を達者に使いこなす以上に、バッハとシューベルトの曲のスタイルや解釈をいかに理解しているかが審査の対象と

なりました。第二次審査では、演奏家がどれだけ自分の個性を表現しているか、新曲を短期間でどれだけ自分のものとして消化できるかを検討しました。最終審査では、ブラームスの室内楽から、演奏家がどれだけ



授賞式にて、審査委員長の今井信子氏から表彰状を受け取る1位のセルゲイ・マーロフ氏

©藤本史昭

室内乐的音楽性を持っているか、そしてオーケストラとの共演で証明されるソリストとしての存在感を考慮に入れました」

満席となった会場では、入賞者の演奏に聴衆から惜しめない拍手が送られた。

世界のヴィオラ音楽の発展に向けて

3年に1度開催される東京国際ヴィオラコンクール。第2回は2012年を予定している。今後の展望について、紀尾井ホールを運営する(財)新日鉄文化財団事務局長の町田龍一氏は次のように語る。

「ヴィオラスペースはすでに17年の

歴史を刻み、わが国音楽界の重要なシーンの一つとなっています。2003年にカザルスホールから継承して7年目の今年、この記念すべき第1回東京国際ヴィオラコンクールに立ち会えたことに、紀尾井ホールの全員がこの上ない喜びと使命を感じまし

た。今後このコンクールが回を重ね、世界のヴィオラ音楽の発展に大きく寄与することを願ってやみません」



(財)新日鉄文化財団事務局長
町田 龍一氏

コンクールのレベルを上げた紀尾井ホール 東京国際ヴィオラコンクール審査委員長 今井 信子氏

多くの人にとってポジティブで感動的なコンクールだったと思います。昨年12月に予備審査を行いました、その時点で世界レベルの皆さんが集まってくれたという手応えがありました。今回入賞した人たちは、今後日本のヴィオラ界にも大きな影響を与えるだろうと思います。コンクールを通じて、世界の新しい息吹を感じました。

そして第1回目からこのような素晴らしいコンクールを実現できたのは、紀尾井ホールという空間だったからこそと思っています。第1次審査から最終審査まですべてを紀尾井ホールで行えたことがコンクールの格、レベルを高くした一番の理由だと思います。

参加者からも、素晴らしいホールで演奏でき、自分の思うように弾くこ

とができたといううれしいコメントが多く聞かれました。多くの参加者が、素晴らしいホールの音響や献身的なスタッフの皆さん、お客様に励まされ、新たなエネルギーをもらえたのではないのでしょうか。

